ハイブリッドカーのある生活

「エコカー」への流れが加速している。その背景には、地球環境保護への意識の高まり、そして政府が進めるさまざまな補助制度による後押しもあるが、ハイブリッドカーなどの車種も多くそろい、選択肢が増えクルマとしての魅力も高まっているからにほかならない。ここではエコカー代表車種、トヨタ・プリウスにスポットを当て、ハイブリッドカーがなぜエコなのか、従来のクルマとどう違うのか、実際のユーザーの声も聞きながら人気の訳を探った。そこからは、ハイブリッドカーによって変わる生活の様子が浮かび上がった。

Owner's Voice

クルマに新しい価値観もたらした

乗るほどに強まるコンセプトへの共感

ハイブリッドカーとは、電気で動くモーターとガソリンなどで動くエンジンの2つの動力を持つクルマを指す。それぞれの動力の得意分野を最大限に生かした、エンジンだけで動くこれまでのクルマとは一線を画したコンセプトが市場に受け入れられてきた。そして、そのハイブリッドカーのパイオニアとして市場を先導してきたのがトヨタ自動車の「プリウス」である。

2月9日、トヨタがブレーキの制御システムの不具合を理由にプリウスなどハイブリッドカーのリコール（回収・無償修理）を発表した。今をときめくハイブリッドカー代表車種なだけに社会に動揺が走ったが、ユーザーはどう感じたのか。6人の生の声を取材した結果が左記の通りである。

取材前、最近の一連の報道による影響を少なからず懸念していたのは当然のことだった。しかし、取材した限りでは、特に意識の変化は感じられなかった。プリウスオーナーたちは、リコールの有無にかかわりなく、プリウスを選んだ時の共感を持ち続け、乗るほどにその度合いを強めていたのである。

環境性能はもちろんその走行性にも満足を感じているばかりか、実際に乗り始めてから、明らかにハイブリッドカーによって生活が変わっていくプロセスを体験している点で共通していた。

プリウスが変える生活そして意識

プリウスの購入動機や気に入っている点のトップに抜群の燃費のよさや環境貢献の意義が語られているのは予想通りである。ただ、実際に乗ってみてのユーザーの驚きからは、数字には表れない満足感が伝わった。

しかし、それよりもなお印象的だったのが、クルマのコンセプトが運転する人間の生活を変えてしまうという事実である。

まず運転そのものが楽しく快適になるのでドライブ自体の頻度が上がり「遠出が苦にならなくなった」という言葉がマイカーとして利用する全員から聞かれた。こうした変化は、紹介したエピソードからもよく伝わるように、親と子の関係や夫婦、恋人との間柄など、さまざまな人間関係がプリウスによってより円滑に、そして互いの距離が近づいていく姿まで想起させた。

こうした生活の変化は意識の変化と共に生まれる。もちろんドライブ自体がより楽しくなることは最も大きな要素だが、それだけではない。プリウスに搭載される「エコドライブモニター」はエコドライブを基準にした運転状況をモニター表示する機能だが、この表示に従って運転するうち運転スタイル自体が「自然に優しくなった」と語るユーザーが複数いた。これは自分でも気づかぬうちにエコドライブの意識がはぐくまれていたことを意味する。それは、環境対応車としてのプリウスの魅力のほかに、ドライバー自らが新たな満足感をつくり出した瞬間でもある。その意味でプリウスは、100年間以上培われてきた自動車への概念を環境共生時代の新しい価値観に変えるポテンシャルを持つクルマだと言うことができる。

Voice・01 長距離運転の楽しみが広がる

以前からエコカーには関心がありましたが、プリウスはデザインを見て気に入ってすぐ購入しました。乗り始めてしばらくして「運転が優しくなったな」と気づいたんです。エコドライブの状況を示すディスプレーを見て運転するうち、急発進・急加速などをしない意識が身についていたんですね。好きなクルマで気分がいいから長距離運転も楽しくなり、東京の娘の家に孫の顔を見に行く機会も増えましたよ。また、時間があれば夫婦で岐阜の日帰り温泉にも出かけます。

愛知県／公務員　Ｉさん（50代）

Voice・02 私自身もイメージアップ

父のプリウスの燃費のよさにひかれ営業車として購入しましたが、５ｋｍ／ℓそこそこの燃費だった以前のクルマから４倍くらいに向上して驚きました。元自動車整備士なのですが、５年間１５万ｋｍ走ってまだ一度も故障がないのも驚いています。プリウスに乗り始めてから、もう一台所有している車に乗ると「環境を壊している」感じがして休日もあまり乗らなくなりました。実はプリウスのお陰で、営業マンとしての私のイメージアップにもなっているんですよ。

千葉県／自営業　Ｍさん（30代）

Voice・03 野球道具をもたくさん積める

プリウスで初めて実家の京都まで往復した際、以前は最低２回給油していたのに１度も給油しなかったので驚きました。運転中も静かで「猫みたいに静かに移動するね」とは娘の言葉です。小学生の息子の野球チームを手伝っているのですが、プリウスはリアシートがフラットで荷物が置きやすくトランクも広いので荷物の多い試合会場の行き帰りなど本当に重宝します。会場までは分乗して行くのですが、子供たちを３人乗せても以前より楽になった気がします。

東京都／主婦　Ｋさん（40代）

Voice・04 走行中の静かさに驚き

社用車としてのプリウスを通して日々、環境貢献を実感しています。最初に感じたのが、エンジン音がほとんどしないため「本当にクルマに乗っているの」という不思議な感覚。こんなクルマは初めてで、排気が少ないという実感が環境にいいクルマを運転しているという意識を起こさせてくれます。プライベートで乗っている車と比べ、アクセルは軽いし加速もいい。外からの印象より室内にゆとりもあり、マイカーの次の選択肢にプリウスはしっかり入っています。

東京都／会社員　Ｍさん（30代）

Voice・05 出かける回数が一挙に増えた

プリウスが初めてのクルマなのですが、あまり複雑な操作に慣れていないためオーディオ類やナビゲーション、エンジンのオン・オフまで操作が簡単で表示デザインも見やすく工夫されているのがドライバーにはありがたいです。プリウスのお陰でちょっとした休みでも出かけたい気持ちになり、郊外へのショッピングや自然探索などに利用しています。ゴルフは、以前は電車で３カ月に１回のペースでしたが、プリウスで行くようになり何と月１回に増えました。

東京都／会社員　Ｅさん（30代）

Voice・06 ドライブが気軽に楽しくなる

乗ってみて感じたのはドライブの楽しさ。走行中も静かで、音楽をいい環境で聴きながら運転できます。また、燃費を意識した運転をしたい時はエコモード、加速感を味わいたい時はパワーモードと、ドライブモードを変えてさまざまな運転が楽しめます。乗り換える前は燃費もよくなくドライブを控えていたのですが、プリウスに変えてから毎月１万円近かったガソリン代が半分から３分の１に。おかげで夫婦そろって気軽に買い物やゴルフなど遠出できるようになりました。

埼玉県／会社員　Ａさん（40代）

先端技術で低燃費と安全性を追求

エンジンとモーターの良さを生かす動力システム

ユーザーたちが支持するプリウスの魅力の根幹にあるのが、トヨタ独自の「ハイブリッドシステム」だ。電気で動くモーターとガソリンで動くエンジンを状況に応じ使い分ける。発進時は瞬発力あるモーターのみが作動。通常走行時はモーターを主力に持久力あるエンジンがサポート。加速時にはエンジンとモーターの両方が作動し、それぞれのパワーを最大限に発揮する。

ガソリン車に比べ低燃費と二酸化炭素（CO_2）排出量の低減を実現しているのは、このようにエンジンを休ませたり、モーターと助け合って互いの負担を減らす相乗作用の効果だ。モーターだけによる発進は、夜間でも驚くほど静か。逆にエンジンとモーターの両方で加速すれば、高速道への合流もスムーズで、それぞれの特徴が十分に生かされる。

ブレーキをかけながら発電する回生ブレーキ

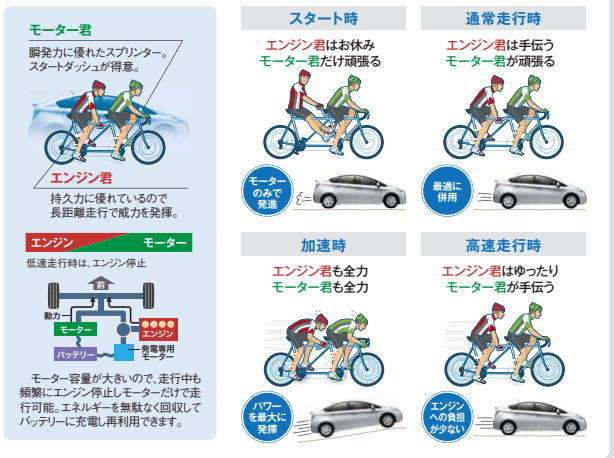
２つの動力源に加えブレーキが２系統あるのもハイブリッドカーの特徴だ。１つは、タイヤに油圧をかけ摩擦抵抗で回転速度を抑える油圧ブレーキ。ハイブリッドカー独自のもう１つのブレーキが「回生ブレーキ」だ。通常は走行するために使うモーターを発電機としても利用し、ブレーキをかけた際のタイヤの回転を発電機を回す力に使って電気もつくる。ブレーキがかかる仕組みは、自転車でライト（発電機）を使う際にペダルが重くなるのと同じ（抵抗）力をクルマの減速に使うから。つくられた電気は高出力バッテリーに充電され再び走り出す時に利用するため無駄が少ない。ハイブリッドカーは、まず回生ブレーキで電気を蓄えながら減速し、徐々に油圧ブレーキに切り替えクルマを停止させる。低燃費はブレーキからも生まれているのだ。

このブレーキをサポートするのが「ＡＢＳ（アンチロック・ブレーキ・システム）」。滑りやすい路面でブレーキをかけると、タイヤの回転が止まってもクルマがまだ進み続けることがある。クルマはタイヤの回転が止まるロック状態ではハンドル操作が効かなくなるため、スピンしてしまうことがある。そこでＡＢＳは、滑りやすい路面でもブレーキのかかり具合を自動的に調整してタイヤのロックをしないよう最適に制御し、急ブレーキ時にもハンドル操作を可能にする。また、滑りやすい道で止まる時も回生ブレーキから油圧ブレーキに替わる過程でＡＢＳが作動することで、安定性を保ちながら減速・停車ができる。

トヨタはプリウスやＳＡＩなどのＡＢＳ作動完了後の制動力が作動直前より低下する可能性のある制御プログラムを修正するというリコールを発表した。そして、１カ月後の３月11日には、対象の４車種約22万３000台について予約分を含めほぼ全車種に修理のめどが立ったと発表した。プリウスで新時代のカーライフを期待している人々は多いに違いない。

■お問い合わせ・トヨタ自動車株式会社／お客様相談センター
フリーコール 0800（700）7700
（9：00～18：00）

■トヨタ独自のハイブリッドシステム■



ABS（アンチロック・ブレーキ・システム）とは

●ABS非装着車（上）は、タイヤがロックしてしまうとハンドルを操作してもタイヤが滑るだけでクルマの方向を自由にできなくなります。
●ABS装着車（下）は、タイヤのロックを防げるので、速度を落としながらハンドル操作を行って方向性を柔軟に保つことができます。

■ハイブリッドカーは2種類のブレーキを上手に組み合わせて止まります■

油圧ブレーキ　ガソリン車でおなじみのブレーキ。ブレーキペダルを踏んだ力を油圧で伝え、タイヤの回転速度を抑えたり止めたりします。

回生ブレーキ　電車で使われてきたブレーキ。走行時に使うモーターを発電機として使い、タイヤの回転を発電機を回す力に変えブレーキ中に発電します。

企画・制作=日本経済新聞社クロスメディア営業局　広　告